



インストールガイド - 日本語

FUJITSU Software ServerView Suite

ServerView Agents V9.40 for Linux

(SUSE, Red Hat, and Citrix XenServer)

2021年3月版

DIN EN ISO 9001:2015 に準拠したドキュメントの作成

高い品質とお客様の使いやすさが常に確保されるように、

このマニュアルは、DIN EN ISO 9001:2015

基準の要件に準拠した品質管理システムの規定を

満たすように作成されました。

cognitas. Gesellschaft für Technik-Dokumentation mbH

www.cognitas.de/en/

著作権および商標

Copyright 1998 - 2021 FUJITSU LIMITED

All rights reserved.

お届けまでの日数は在庫状況によって異なります。技術的修正の権利を有します。

使用されているハードウェア名とソフトウェア名は、各メーカーの商標名および商標です。

Apache Tomcat、Tomcat、Apache、Apache の羽根、Apache Tomcat プロジェクトのロゴは、Apache Software Foundation の商標です。

目次

1 はじめに	5
1.1 アーキテクチャ	6
1.2 本マニュアルの対象者および目的	8
1.3 技術的要件	8
1.3.1 最終段階での変更や修正	8
1.3.2 管理対象サーバ	9
1.4 新機能	10
1.5 ServerView Suite リンク集	10
1.6 ServerView Suite のマニュアル	12
1.7 本書の表記	12
2 管理対象サーバでの準備	14
2.1 BIOS およびファームウェアの設定	15
2.1.1 BIOS の設定	16
2.2 サーバの設定	18
2.3 ServerView のセキュリティコンセプト	20
2.3.1 特定の SET 操作の禁止	20
2.3.2 すべての SET 操作の禁止	21
2.3.3 ユーザ認証による SET 操作	21
2.3.4 SNMP エージェントのOS固有の特性	23
2.4 SNMPサービスの設定	24
2.5 ハードウェアクロックの設定 (CMOS クロック)	25
2.6 ドライバモニタ機能の使用に必要な設定	26
2.6.1 SLES11 および SLES12/SLES 15 のドライバモニタ機能	26
2.6.2 RedHat のドライバモニタ機能	27
2.6.3 syslog のデフォルトフォーマットを変更した場合、必要な設定	27
2.7 ServerView Agents のカーネルモジュールのインストール	27
2.7.1 ServerView Agents のカーネルモジュールのインストール (SUSE Linux)	28
2.7.1.1 srvmagt-modules-<version>.iso ドライバキットイメージの取得	28

2.7.1.2 srvmagt-modules-<version>.iso ドライバキットイメージの管理対象 サーバへの提供	29
2.7.1.3 オンラインリポジトリからのカーネルモジュールの取得	29
2.7.2 ServerView Agents のカーネルモジュールのインストール (Red Hat Linux)	30
2.7.2.1 srvmagt-modules-<version>.iso ドライバディスクイメージの取得	30
2.7.2.2 srvmagt-modules-<version>.iso ドライバディスクイメージの管理対象 サーバへの提供	30
2.7.2.3 オンラインリポジトリからのカーネルモジュールの取得	31
3 ServerView Agents のインストール	33
3.1 要件	34
3.2 スクリプトベースのインストール	35
3.2.1 ServerView Suite DVD 2 を使用したインストール	36
3.2.2 ディレクトリからのインストール	37
3.3 rpm コマンドを使用するインストール	38
3.4 エラーの考えられる原因	39
3.5 インストール後の ServerView Agents のメンテナンス	39
3.5.1 srvmagt スクリプト	39
3.5.2 エージェントの設定	41
3.5.3 ServerView Agents の改善された可用性	44
3.5.4 ServerView Agents をアンインストールする	44
3.5.5 ServerView Agents の開始と停止	45
3.5.6 ServerView CIM Providerの開始と停止	45
3.5.7 補足情報	45
3.5.8 管理ユーザの設定	46
3.5.9 インストール後のコンピュータ情報の変更	47
3.5.10 アップデートインストール/カーネルのアップデート	48
3.5.11 パフォーマンスマネージャによるレポートの出力	48
3.5.12 /tmp ディレクトリ配下の一時ファイル	49
3.5.13 syslog のソース名	49
3.6 APC UPS の設定	49

1 はじめに

ServerView Operations Manager（略してOperations Manager）は、Fujitsu ServerView Suiteの無償のサーバ管理モジュールです。Windows および Linux（SUSE および Red Hat）で実行される業界標準サーバ、またはハイパーバイザ（VMware ESXi、Citrix XenServer、または Hyper-V）を使用する仮想マシン（VM）のホストとして動作するサーバの集中管理に使用されます。

1 つまたは複数の中央管理用サーバですべての物理サーバと仮想サーバを標準化した方法で管理します。中央管理用サーバには、一般的な Web ブラウザが搭載された、ネットワーク内の任意のワークステーションからアクセスできます。

Operations Manager は、プロセッサ、RAM、ハードディスク、ファン、電源などの重要なハードウェアコンポーネントを含めた個々のシステムを管理します。消費電力を監視して制御し、パフォーマンスと使用率のデータを分析して、サーバ構成を更新します。

Operations Manager のセキュリティコンセプトには、役割ベースのユーザ管理が含まれており、3 つのコンセプトを基礎としています。

- LDAP ディレクトリサービス（Lightweight Directory Access Protocol）によるグローバルユーザ管理
- 役割ベースのアクセス制御（RBAC）
- 中央認証サービス（CAS）に基づくシングルサインオン（SSO）

RBAC では、タスク指向の権限プロファイルを各役割に割り当てることにより、ユーザのセキュリティコンセプトとユーザの企業構造を合わせて調整することができます。

SSO では、一度だけユーザ認証を受ける必要があります。正常に認証されると、すべての ServerView コンポーネントへのアクセスが付与されます。再度サインオンする必要はありません。

Operations Manager によるサーバ管理は、サーバネットワークを総合的に管理するオペレータにとって重要な利点があります。

- サーバのフェールセーフによる、生産性の向上
- IT インフラストラクチャの自動監視機能によるコストの削減
- サーバは柔軟に拡張でき、Operations Manager は条件が変更されても簡単に調整可能
- シンプルなエラー分析によるダウンタイムの短縮
- エネルギー効率を確保し、可能な場合はサーバを無人操作

- エラー発生時の対応時間を短縮
- ネットワークコンポーネントおよびそのリソースを効率的に使用することで、総所有コスト（TCO）を削減
- 人間工学ソフトウェアにより非常に容易な操作：分かりやすい設計、インテリジェントなユーザガイダンス、支援的ヘルプシステム

1.1 アーキテクチャ

ServerView Operations Manager のアーキテクチャは、管理コンソール、管理用サーバ（CMS）、監視対象サーバに基づいています。

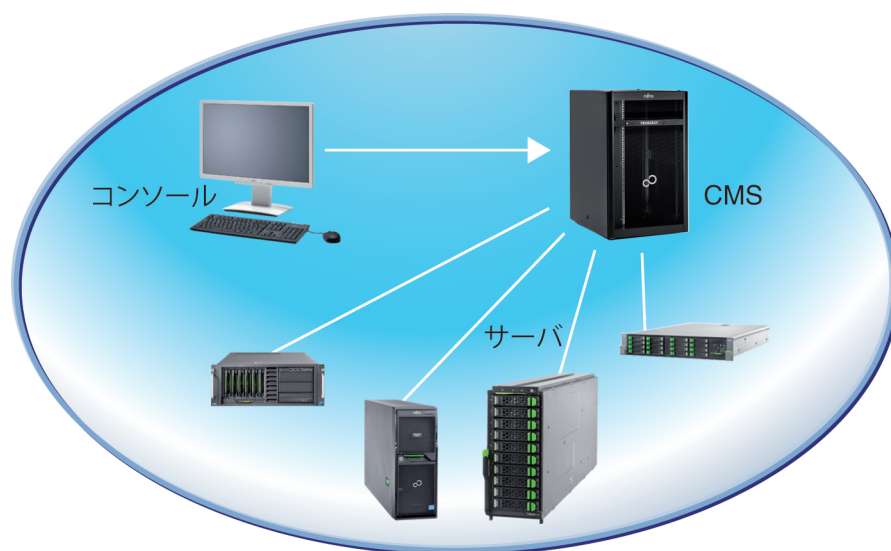


図 1: ServerView Operations Manager のアーキテクチャ

管理コンソール



管理コンソールでサーバを管理でき、指定したデータを表示することができます。一般的な Web ブラウザが必要です。ブラウザとして以下を使用できます。

- 一般的な Web ブラウザが搭載された Microsoft Windows
- ディストリビューションでリリースされたデフォルトの Web ブラウザがインストールされている SUSE/Red Hat Linux

中央管理用サーバ (CMS)



CMS に、ServerView Operations Manager V 5.30 がインストールされています。Virtual IO-Manager などの ServerView Suite のオプションコンポーネントも CMS にインストールされ、ServerView Operations Manager に統合されます。

CMS (および ServerView Operations Manager とそのコンポーネント) は、ハイパーバイザ (VMware ESXi、Microsoft Hyper-V、または Red Hat Enterprise KVM) を使用する Windows ベース または Linux ベース 仮想マシン (VM) でも実行できます。

ServerView Suite および iRMC のグローバルユーザ管理ではそれぞれ、すべての CMS / iRMC のユーザを LDAP ディレクトリサービスのディレクトリに一元的に保存します。これにより、ユーザを中央サーバで管理することができます。そのため、これらのユーザは、このサーバに接続されるネットワーク上のすべての CMS および iRMC で使用できます。

ServerView Suite は現在、以下のディレクトリサービスをサポートしています。

- ApacheDS
- Microsoft Active Directory

ServerView Operations Manager のインストール時には、ServerView の内部ディレクトリサービス (ApacheDS) または既存の外部ディレクトリサービス (Active Directory) を選択するオプションがあります。ServerView でのディレクトリ サービスの使用方法については、ServerView でのユーザ管理取扱説明書を参照してください。

ServerView が作成して使用するデータは、SQL サーバ内の SQL データベースに保存されます。以下の SQL Server が ServerView Operations Manager のインストールに含まれます。

- Windows Server での SQL Server 2014 Express
- Linux: PostgreSQL

Windows では、その他の Microsoft SQL Server データベースも使用できます。

ServerView Operations Manager のインストール方法については、以下のマニュアルで説明しています。

- Installing ServerView Operations Manager Software under Windows
- Installing ServerView Operations Manager Software under Linux

管理対象サーバ



CMS には ServerView Agents、ServerView CIM Provider、または ServerView Agentless Service をインストールする必要があり、これによって中央管理用サーバに情報を提供します。ServerView RAID Manager および ServerView Update エージェントも管理対象サーバにインストールする必要があります。

仮想マシン（VM）への ServerView Agents のインストールはリリースされていません。

- ServerView Agents は Windows、Linux、Citrix XenServer で使用できます。
- ServerView CIM Provider は Windows、Linux、VMware ESXi で使用できます。

ServerView Operations Manager は現在、VMware ESXi 向け ServerView CIM Provider のみをサポートします。

インストール方法については、以下のマニュアルで説明しています。

- ServerView Agents for Windows
- ServerView Agents for Linux
- Installation ServerView ESXi CIM Provider
- ServerView CIM Providers for Windows, Linux, and VMware ESXi

1.2 本マニュアルの対象者および目的

本マニュアルは、ハードウェアおよびソフトウェアについての十分な専門知識をお持ちのシステム管理者、ネットワーク管理者、およびサービス技術者を対象としています。本マニュアルは、Linux SUSE、Red Hat、Citrix XenServer での ServerView Agents のインストールについて説明しています。

1.3 技術的要件

1.3.1 最終段階での変更や修正

技術的要件の最終段階での変更や修正は、ServerView Suite DVD 2 に収録されている Readme ファイルに記載されています。以下のオプションがあります。

- DVD で、**SVSSoftware – Software – ServerView – Linux – Agents** ディレクトリに移動します。

- DVD を起動して、Welcome ダイアログで「**ServerView Software Products**」を選択します。Web ブラウザウィンドウで、「**ServerView**」 - 「**Agents and Providers**」 - 「**Info**」の順に選択します。

1.3.2 管理対象サーバ

ServerView Agents は以下の OS で使用できます。

- Red Hat Enterprise Linux (64 ビット)
 - RHEL6.10 (x86_64)
 - RHEL7.5 (x86_64)
 - RHEL7.6 (x86_64)
 - RHEL7.7 (x86_64)
 - RHEL7.9 (x86_64)
 - RHEL8 GA (x86_64)
 - RHEL8.1 (x86_64)
 - RHEL8.2 (x86_64)
 - RHEL8.3 (x86_64)
- SuSE Linux Enterprise Server (64 ビット)
 - SLES12 SP3 (x86_64)
 - SLES12 SP4 (x86_64)
 - SLES12 SP5 (x86_64)
 - SLES15 GA (x86_64)
 - SLES15 SP1 (x86_64)
 - SLES15 SP2 (x86_64)
- Citrix Xen Server (64 ビット)
 - Citrix Hypervisor (XenServer) 6.5 GA
 - Citrix Hypervisor (XenServer) 7.4 GA
- Oracle Linux (64 ビット)
 - OL 6.10 (x86_64; Unbreakable Enterprise Kernel)
 - OL 6.10 (x86_64; Red Hat Compatible Kernel)
 - OL 7.5 (x86_64; Unbreakable Enterprise Kernel)
 - OL 7.5 (x86_64; Red Hat Compatible Kernel)
 - OL 7.6 (x86_64; Unbreakable Enterprise Kernel)
 - OL 7.6 (x86_64; Red Hat Compatible Kernel)
 - OL 7.7 (x86_64; Unbreakable Enterprise Kernel)

- OL 7.7 (x86_64; Red Hat Compatible Kernel)
- OL 8.0 (x86_64; Red Hat Compatible Kernel)
- Oracle Virtual Machine (64 ビット)
 - OVM 3.3
 - OVM 3.4

1.4 新機能

本版のマニュアルは ServerView Agents V9.40 以上に適用され、オンラインマニュアル『ServerView Agents V9.20 for Linux』（2020 年 1 月）の更新版です。

このマニュアルでは、以下の変更と追加について主に説明します。

- ドキュメントは、現在サポートされる OS に適合しています。そのため、[8 ページの 技術的要件](#)の項が更新されました。
- ServerView Operations Manager の新しいグラフィカルユーザインターフェース (GUI) に適合されました。
- Fujitsu マニュアルサーバがサポートされなくなったため、Fujitsu マニュアルサーバの開始ページからリンク集にアクセスできなくなりました。それに伴い、[10 ページの ServerView Suite リンク集](#)の項が更新されました。
- ServerView Suite のマニュアルが Fujitsu Technical Support ページで公開され、Fujitsu マニュアルサーバからは削除されました。それに伴い、[12 ページの ServerView Suite のマニュアル](#)の項が更新されました。

1.5 ServerView Suite リンク集

ServerView Suite リンク集により、Fujitsu は ServerView Suite および PRIMERGY サーバに関するさまざまなダウンロードや詳細情報を提供します。

「**ServerView Suite**」で以下のトピックに関するリンクがあります。

- サポートデスク
- マニュアル
- 製品情報
- セキュリティ情報
- ソフトウェアのダウンロード



「ソフトウェアのダウンロード」には以下のダウンロードが含まれます。

- ServerView Suite の現在のソフトウェアステータスおよびその他の Readme ファイル。
- ServerView Update Manager により PRIMERGY サーバをアップデートする場合、および ServerView Update Manager Express により個々のサーバをローカルでアップデートする場合の、システムソフトウェアコンポーネント（BIOS、ファームウェア、ドライバ、ServerView Agents および ServerView Update Agent）の情報ファイルおよびアップデートセット。
- ServerView Suite のすべてのドキュメントの最新バージョン。

ダウンロードは無償で入手できます。

PRIMERGY サーバで以下のトピックに関するリンクがあります。

- サポートデスク
- マニュアル
- 製品情報
- スペアカタログ

ServerView Suite リンク集へのアクセス

ServerView Suite のリンク集へアクセスする方法はいくつかあります。

- 次のリンクを使用する。

http://support.ts.fujitsu.com/prim_supported/SVSSoftware/start.html

- ServerView Suite DVD 2 から

1. PRIMERGY ServerView Suite DVD 2 の開始ウィンドウで、「**ServerView Software Products**」を選択します。
2. メニューバーで「**Links**」を選択します。

ServerView Suite リンク集の開始ページが開きます。

1.6 ServerView Suite のマニュアル

マニュアルはインターネットから無料でダウンロードできます。オンラインマニュアルは、Fujitsu Technical Support ページのダウンロードエリアにあります。

マニュアルをダウンロードするためには、次の手順に従います。



1. Web ページ
<https://support.ts.fujitsu.com/IndexDownload.asp?PaOpenTab=manuals> を開きます。
2. 「カテゴリから探す」をクリックします。製品ラインを含むリストが開きます。
3. 「Software」 - 「ServerView」 - 「Operation」を選択します。製品を含むリストが開きます。
4. 製品リストから該当する製品を選択します。
「ドキュメント」タブに対応するページが開きます。



英語およびドイツ語の Fujitsu Technical Support ページの場合のみ：タブが表示されない場合は、「Selected operating system」で「OS Independent (BIOS, Firmware, etc.)」を選択して「Documents」タブをクリックします。

1.7 本書の表記

以下の表記規定を使用します。

表記	説明
	健康上のリスク、データの損失やデバイスの損傷の可能性があるさまざまな種類のリスクを示します。
	追加関連情報とヒントを示します。
太字のテキストおよびかぎ括弧（「」）	インターフェース要素の名前を示します。

テーブル 1: 本書の表記

表記	説明
等間隔表示	パスおよびファイル名など、テキストブロック内で出力やシステム要素を示します。
等間隔表示	テキストブロックの外側にキーボードを使用して入力するコマンド、システム出力、構文および命令文を示します。
monospace semibold (太字の 等間隔表示)	キーボードを使用して入力する命令文の処理例を示します。
青字の文字列	関連するトピックへのリンクを示します。
ピンクの文字列	すでに表示したリンクを示します。
<文字>	実際の値に置き換える必要のある変数を示します。
[文字]	オプション（構文）を示します。
[key]	キーボード上のキーを示します。大文字のテキストを入力する場合、[Shift] キーを指定します。たとえば、A を入力する場合 [Shift] + [A] キーを押します。2 つのキーを同時に押す場合は、2 つのキーをプラス記号で連結して示します。
かぎ括弧（「」） 二重かぎ括弧（『』）	かぎ括弧（「」）は、章の名前を示します。二重かぎ括弧（『』）は、他のマニュアル名などを示しています。

テーブル 1: 本書の表記

画面

いくつかの画面はシステムに依存しているため、表示される詳細はシステムによって異なります。メニューオプションとコマンドには、システム固有の違いがある場合もあります。

2 管理対象サーバでの準備

Operations Manager を開始する前に、管理対象サーバで以下の準備を行ってください。

- PRIMERGY のみ：各管理対象サーバで BIOS で一定の設定を指定する必要があります。15 ページの [BIOS およびファームウェアの設定](#) を参照してください。
各サーバで設定を指定する必要があります（18 ページの [サーバの設定](#) を参照）。
- ServerView には高度なセキュリティコンセプトが取り入れられています。エージェントをインストールする前に、セキュリティコンセプトに関する情報をよく調査して、セキュリティ要件に最適なコンセプトを選択してください。エージェントをインストールする前に、適切な調整を行う必要があります。20 ページの [ServerView のセキュリティコンセプト](#) で説明しています。
- 現在の OS の SNMP サービスを、管理対象サーバおよび管理用サーバにインストールして設定する必要があります。そうしないと、管理用サーバでサーバを監視できなくなります。OS に応じて、エージェントのインストールの前または後に、SNMP サービスを有効にする必要があります。24 ページの [SNMP サービスの設定](#) で説明しています。
- バージョン 7.01 以降では、ServerView Agents は SNMPv3 を利用してサーバを監視できます。

SNMPv3 を ServerView Agents 通信に使用するためには、Net-SNMP マスターエージェントを推奨します。Net-SNMP マスターエージェントは、大部分の Linux ディストリビューションに付属しています。詳細は、ServerView Suite SNMPv3 のマニュアルを参照してください。
- CMOS クロックを GMT ではなくローカルタイムに設定する必要があります。設定しない場合、自動電源オン/オフ機能が設定した時刻に開始されません。これは 25 ページの [ハードウェアクロックの設定（CMOS クロック）](#) で説明しています。
- ドライバモニタ機能の使用に必要な設定を指定する必要があります。26 ページの [ドライバモニタ機能の使用に必要な設定](#) を参照してください。
- ServerView Agents を管理対象の各サーバにインストールする必要があります。33 ページの [ServerView Agents のインストール](#) を参照してください。



- 仮想マシン（VM）への ServerView Agents のインストールはリリースされていません。

- ServerView Update Manager では、ServerView Update Agent を管理対象サーバにインストールする必要があります。このインストールについては、『ServerView Update Management』取扱説明書に記載されています。
- 中央管理用サーバで ServerView Operations Manager を、IP アドレスではなく名前を使用してアクセスするように設定する場合、このアドレスを使用して監視対象サーバからアクセスできるか確認してください。この場合、可能であれば DNS を使用してください。DNS を使用できない場合は、適切な設定を監視対象サーバで `hosts` ファイルに行ってください。このファイルは、Linux システムの `/etc` ディレクトリにあります。

管理対象サーバへの追加インストール

- ServerView RAID Manager
ServerView RAID Manager を使用すると、ハードディスクを管理できます。ServerView RAID Manager がインストールされていない場合、RAID ドライブおよび状態は確認できません。
インストールについては、『RAID Management』取扱説明書に記載されています。

2.1 BIOS およびファームウェアの設定

次の説明は、PRIMERGY にのみ有効です。

使用されているシステムボードに応じて、さまざまな PRIMERGY タイプがさまざまな BIOS バージョンで機能するため、BIOS セットアップの個々の設定と操作は、ここでは詳しく扱いません。



- 各 BIOS バージョンの詳しい説明は、該当の『BIOS Setup Utility』リファレンスマニュアルや、システムボードのテクニカルリファレンスマニュアルに記載されています。
- サーバの起動時に、BIOS セットアップシステムで「**O/S Boot Timeout**」メニュー項目を「**Disabled**」に設定してください。「Disabled」に設定しないと、インストール中にシステムが再起動します。

「**O/S Boot Timeout**」メニュー項目を「**Enabled**」に設定できるのは、すべてのインストール（ServerView Agents も含む）を完了した後でシステムを再起動する場合のみです。

Linux のインストール時に、ファイルシステムのチェックが行われるように「**O/S Boot Timeout**」の値が設定されているかどうかを確認してください。この値が正しく設定されていないと、システムファイルのチェック中にシステムが再起動します。

2.1.1 BIOS の設定

OS が起動するまで、サーバ管理ファームウェアがサーバを監視します。その後、エージェントと Operations Manager が監視機能を引き継ぎます。

サーバごとに BIOS の設定を変更する必要があります。

コンピュータを再起動して、起動段階の適切なタイミングで [F2] または [DEL] を押し、BIOS セットアップを呼び出します。

BIOS セットアップに入ったら、「**Server**」メニューを選択します。このメニューでは、サーバ管理に必要な設定を指定できます。



BIOS セットアップで「**Server**」メニューが表示されない場合は、サーバ管理機能を有効にする必要はありません。ただし、これは、個々のサーバ管理機能の明示的な制御権を与えられていないことも意味することに注意してください。

「**Server**」メニューに「**Server Management**」メニュー項目が含まれている場合、この項目を選択して「**Enabled**」に設定します。これで、サーバ管理機能が有効になります。その他のすべての設定を有効にするには、ここで値「**Enabled**」を選択する必要があります。

「**Server Management**」メニュー項目を使用できない場合は、個々の機能に対する制御権は一般的にリリースに左右されません。

「**Server**」メニューでは、以下のメニューを使用できます。



下記の一部のフィールドは、ハードウェアによっては使用できない場合があります。

O/S Boot Timeout

事前に定義した期間内（起動後）に OS がサーバ管理ファームウェアとの接続を確立できない場合にシステムを再起動するかどうかを指定します。この期間は、Operations Manager を使用して設定することもできます（『Operations Manager 取扱説明書』の「ASR&R」の項も参照）。



サーバの起動時に「O/S Boot Timeout」メニュー項目を「Disabled」に設定してください。「Disabled」に設定しないと、インストール中にシステムが再起動します。

Action

boot watchdog が動作した後に行う動作を指定します。

Timeout Value

「O/S Boot Timeout」が「Enable」になっている場合に、システムの再起動までの時間を指定します。

ASR&R Boot Delay

エラー（温度異常など）が原因でシステムがシャットダウンした後のシステムの自動再起動までの時間を指定します。

Boot Retry Counter

サーバがシャットダウンのままとなるか、RemoteView が起動されるまでの間にサーバが OS の再起動を試行する回数を指定します。

Diagnostic System

「Boot Retry Counter」で設定したシステム再起動の回数に達したときに RemoteView を起動するかどうかを指定します。

Hardware Watchdog

サーバ管理 BIOS がハードウェアカウンタを特定の時間間隔内にリセットできない場合に、サーバを再起動するかどうかを指定します。

Next Boot uses

次のブート時に RemoteView を起動するかどうかを指定します。

Temperature Monitoring

温度が上限値を超えた場合にシステムをシャットダウンするかどうかを指定します。

Memory Scrubbing

メモリをテストしてシングルビットエラーを除去するかどうかを指定します。

BIOS Runtime Logging

プロセッサ/メモリ/PCI エラーをエラーログファイルに保存するかどうかを指定します。

CPU Status

プロセッサを使用できるかどうかを指定します。

Memory Status

特定のメモリモジュールの異常を識別できるようにします。異常と識別されると、これらのモジュールは、次のシステム起動時に使用されません。

Console Redirection

システム上でターミナルを動作させるための設定を指定します。

Storage Extension

グループ設定および通信バス（CAN バス）の設定を指定します

Storage Extension は、一部のサーバでは使用できませんのでご注意ください。

2.2 サーバの設定

サーバを設定するためのさまざまな機能があります。これらの機能の一部は、すべての PRIMERGY サーバでサポートされ、その他は PRIMERGY サーバに搭載されたハードウェアおよびソフトウェアに応じて、特定のサーバでのみ使用できます。

サーバは以下のいずれかの方法で設定できます。

- Server Configuration Manager を使用して管理対象サーバ上でローカルに設定する

Server Configuration Manager を使用して、ターゲットシステムの一般的なシステム動作を設定し、ターゲットシステムのリモート管理コンポーネント (iRMC) を設定できます。

ServerView Installation Manager を ServerView Suite DVD 1 から起動した場合、Server Configuration Manager を「**Server Configuration Manager**」ボタンから開始できます。



- 。ターゲットシステムの PRIMERGY サーバタイプによっては、すべてのステップを実行する必要はありません。また、個々のステップの順序や、個々のステップの設定オプションは、システムによって異なります。
- 。個々のサーバ設定ダイアログステップの詳細は、Server Configuration Manager のオンラインヘルプを参照してください。

- Operations Manager のグラフィカルユーザインターフェースに統合された ServerView Server Configuration によって設定する。これにより、Web インターフェースを使用してリモートワークステーションからサーバを設定できます。

Operations Manager のメインウィンドウのメニューバーで「監視」 - 「サーバの設定」の順に選択して、ServerView Server Configuration を Operations Manager で開始します。詳細については、「ServerView Operations Manager」取扱説明書を参照してください。

「サーバ設定」の詳細については、『ServerView サーバ設定』取扱説明書を参照してください。



ServerView Agents がインストールされているサーバのみ設定できます。

システムによっては、指定された設定の一部が BIOS に書き込まれます。

以下のことを実行できます。

- サーバ、システムボード、iRMC の重要なデータを読み取ります。
- BOOT およびソフトウェアウォッチドッグの設定を読み取り、設定します。
- メモリモジュールのエラーカウンタを読み取り、編集します。

PRIMERGY のみ：

- サーバのエラーとイベントログを読み取り、削除します。
- システムファンを監視し、キャリブレーションを行います。
- シャーシ ID（出荷時に設定済み）を読み取り、設定します。
- システムランタイムのカウンタを読み取り、設定します。
- HTTP および Telnet の設定と、HTTP のリモート管理コントローラの設定を指定します。
- iRMC Web インターフェースの IP および DNS 設定を指定します。

- リモート管理コントローラの SNMP インターフェースに対する SNMP コミュニティおよびトラップターゲットを指定します。
- リモート管理コントローラのユーザ ID を管理します。
- RSB とリモート管理コントローラのシリアルインターフェースを設定します。
- Operations Manager UPS 管理統合を設定します。
- ServerView Local Service Display のディスプレイに表示される情報を設定します。

2.3 ServerView のセキュリティコンセプト

ServerView SNMP エージェントと ServerView Operations Manager は、サーバ上での不正な SNMP SET 操作を防止するセキュリティコンセプトを提供します。

管理対象サーバでの SNMP SET 操作へのアクセスを制限できます。以下のオプションがあります。

- 特定の SET 操作を禁止する。
- すべての SET 操作を禁止する。
- ユーザ認証によって SET 操作を保護する。

ユーザ認証オプションを選択した場合、SET 操作を開始するたびにシステムはユーザ認証ルーチンを実行します。認証ルーチンが正常に実行されると、システムは、ユーザが管理者によって定義されたユーザグループのいずれかに属しているか確認します。



ユーザ認証は ServerView Operations Manager でのみ動作します。その他の SNMP ツールでは動作しません。

SNMP サービスのデフォルト構成を変更することで、不正アクセスのリスクを低減することもできます。詳細は、[24 ページの SNMP サービスの設定](#)を参照してください。

2.3.1 特定の SET 操作の禁止

SET 操作によっては、システムがシャットダウンまたは再起動することがあります。これらの特別な SET 操作は許可することも禁止することもできます。[41 ページのエージェントの設定](#)の「AgentShut」を参照してください。

2.3.2 すべての SET 操作の禁止

ServerView Agents のすべての SET 操作を禁止できます。エージェントのインストール時にこれらの仕様を入力します。41 ページの [エージェントの設定](#) の「AgentPermission」を参照してください。



このオプションは ServerView Agents にのみ適用されます。その他の SNMP エージェントに対する SET 操作には影響はありません。

2.3.3 ユーザ認証による SET 操作

SET 操作へのアクセスを制限して、ユーザ認証によって SET 操作の実行を保護できます。ここでは、ユーザ認証ルーチンを管理対象サーバの各セッションの開始時に開始するか、または新規 SET セッションの開始時にユーザ認証を開始するかを、選択できます。

ユーザ認証については、管理対象サーバと管理用サーバで、以下の設定を指定する必要があります。

エントリ	設定
管理対象サーバ	<ul style="list-style-type: none">・ ユーザとユーザグループの定義・ 特定のユーザグループへのユーザの割り当て・ エージェントのインストール中の指定されたユーザグループの指定
管理セッション	「サーバのプロパティ」ビューに Operations Manager の「ログイン」グループでユーザを指定します。

テーブル 2: ユーザ認証の設定

ユーザとユーザグループの定義と、ユーザの割り当て

各管理対象サーバで、OSに固有の方法を使用して、ユーザとユーザグループを定義する必要があります。ユーザまたはユーザグループには任意の名前を選択できます（「Administrator」を含む）。

複数のサーバに同一のユーザとグループ ID を作成するかどうかを、事前に決定しておく必要があります。

エージェントのインストール中のユーザグループの指定

サーバへのエージェントのインストール中に、SET 操作の実行を許可されたユーザが属するユーザグループを指定する必要があります。ServerView Agents のインストールと設定は、OSとバージョンによって異なります。各条件でのインストールと

設定の詳細については、[41 ページの エージェントの設定](#)以降のエージェントの説明を参照してください。

管理用サーバでのユーザの指定

管理用サーバでは、現在のサーバで SET 操作の実行を許可されているユーザを指定する必要があります。管理用サーバを使用して SET 操作を実行すると、ユーザは識別情報の入力を求められます。「サーバのプロパティ」ビューの「ログイン」グループでユーザを定義します。以下の例ではユーザは「SVUSER」です。

図 2: ユーザ認証のユーザ ID の定義

セキュリティ上の理由でユーザにパスワードを割り当てている場合は、ここにもパスワードを入力することを推奨します（「パスワードの設定」）。「毎回パスワードを要求する」オプションでは、設定を変更するたびに、または Operations Manager を開始した後に初めて変更を行った後のみ、ユーザ名とパスワードを要求することを指定できます。「毎回パスワードを要求する」を有効にすると、パスワードが保存されないで、最高レベルのセキュリティを実現することができます。

「サーバリスト」ウィンドウの左にあるナビゲーションエリアで、設定を適用するサーバを選択できます。また、一度に複数のサーバを選択することもできます。これにより、各サーバにそれぞれ設定を適用するのか、または同じ設定を複数のサーバにまとめて適用するのかを指定できます。

プロパティウィンドウを開く方法は、『ServerView Operations Manager』取扱説明書に記載されています。

以下の例では、ユーザ認証が有効な場合の手順を示します。

例

ユーザ `svuser` はサーバ **Spyrtus** で設定され、管理用サーバの Operations Manager の「**ログイン**」タブで指定されています。管理用サーバを使用して SET 操作を実行すると、ユーザは識別情報の入力を求められます。



図 3: ユーザ認証

2.3.4 SNMP エージェントのOS固有の特性

以降の項では、ServerView のセキュリティコンセプトの実現に関する、OSおよびエージェントのバージョン固有の手順を説明します。

SNMP のセキュリティコンセプト

サーバを管理用サーバから監視するには、OSをインストールした後に、bin グループに属するユーザを設定する必要があります。

該当する機能を有効にするには、このユーザ名と対応するパスワードを管理用サーバに入力する必要があります。

エージェントのインストール方法については、[33 ページの ServerView Agents のインストール](#)を参照してください。

2.4 SNMPサービスの設定

現在のOSの SNMP サービスを、管理対象サーバおよび管理用サーバにインストールして設定する必要があります。

ServerView Linux Agents では、システムの SNMP サービスの設定ファイルに設置パラメータを指定する必要があります。このファイルは

/etc/snmp/snmpd.conf にあります。この設定ファイルは、vi などを使用して編集する必要があります。構文についての情報は、snmpd.conf のマニュアルページに記載されています（man snmpd.conf を呼び出す）。

- sysContact に該当する連絡先を、sysLocation にサーバの場所を指定します。

authtrapenable を 1 (enable) に設定します。これにより、SET 操作中に管理用サーバのコミュニティが不明な場合、または SET 操作で必要な権限がない場合に、トラップが送信されます。2 (disable) の場合、この機能を無効にできます（デフォルト）。

この詳細情報は、snmpd.conf のマニュアルページを参照してください。

- 以下の例では、ネットワークとサーバ環境を一致させるために調整する必要があります。

```
com2sec svSec localhost public
com2sec svSec <subnet>/<netmask> public
group svGroup v1 svSec
view svView included .1
access svGroup "" any noauth exact svView none none
```

環境に応じて <subnet>/<netmask> を調整する必要があります。デフォルトで、読み取り専用の SNMP アクセスが許可されています。

3 つ以上の com2sec 定義を使用している場合は、順序が重要です。IP アドレスと受信 SNMP 要求のコミュニティに一致する最初の com2sec 定義が使用されます。このため、特定の IP 領域の com2sec 定義を、汎用アクセス用（同じコミュニティ）の定義の前に設定する必要があります。

subnet と netmask の構文など、詳細については、snmpd.conf のマニュアルページを参照してください。

- この例では、コミュニティ名は public です。

セキュリティ上の理由で別のコミュニティ名を使用する場合は、例で使用されているコミュニティ名 public を選択した名前に置き換えます。

選択したコミュニティ名を、「サーバのプロパティ」の「ネットワーク /SNMP」タブでも、管理用サーバに対して入力してください。

- SNMP アクセスによる値の変更は、デフォルトで許可されていません。管理用サーバで管理対象サーバの値を変更する、またはシャットダウンするには、

SNMP SetRequests を許可する必要があります。このためには、上記の設定例の最終行を次のように変更します。

```
access svGroup "" any noauth exact svView svView none
```

AgentPermission と AgentShut の値が 3 に設定されていることも確認してください。これらの値の config ファイルでの定義の詳細は、[41 ページのエージェントの設定](#)を参照してください。

- SNMP トラップのターゲットアドレスを指定します。trapsink には、管理用サーバの IP アドレスまたは名前を入力します。複数の管理用サーバを入力できます。snmpd.conf に管理用サーバ 1 つにつき 1 行を追加します。

```
trapsink <ホスト> <コミュニティ名>
```

<コミュニティ名> には、public または使用するコミュニティ名を入力します。

- LSI/Mylex RAID コントローラの GAM エージェントは SNMP マスターエージェントと SMUX プロトコル (SNMP マルチプレックスプロトコル) を介して通信します。

GAM エージェントがインストールされている場合、以下の行を SNMP 設定ファイルに追加する必要があります。

```
smuxpeer .1.3.6.1.4.1.1608 mylex
```

- 変更を行った場合は、snmpd サービスまたはサーバを再起動します。



ファイアウォールがサーバで有効になっている場合、SNMP ポートが開いていることを確認してください。以下を受け付けることを確認してください。

- ポート 161 (サービス名 snmp)、プロトコル udp で受信パッケージ
- ポート 162 (サービス名 snmptrap)、トラップを送信できるプロトコル udp で送信パッケージ
- ポート 3172 (リモートコネクタサービス) とポート 3173 (ServerView RAID Manager)、tcp プロトコル
- CIM サーバポート 5988 (HTTP用) または 5989 (HTTPS 用)

2.5 ハードウェアクロックの設定 (CMOS クロック)



iRMC S1、iRMC S2、iRMC S3 のみ。iRMC S4 では、この設定は不要になりました。

CMOS クロックを GMT ではなくローカルタイムに設定する必要があります。設定しない場合、自動電源オン/オフ機能が設定した時刻に開始されません。

ローカルタイムは各OSで次のように設定されます。

- SUSE:
YaST – System で、CMOS クロックにローカルタイムを割り当てます。
以下の設定を確認します。
「Hardware Clock Set To UTC」 オプションを無効にする必要があります。
「Date and Time」 ウィンドウで、「Local Time」 エントリを「Hardware Clock Set To」 選択リストから選択します。
- Red Hat:
linuxconf で、CMOS クロックにローカルタイムを割り当てます。
以下の設定を確認します。
「Date and Time Properties」 ウィンドウの「Time Zone」 タブで、
「System Clock」 オプションを使用できます。
「System Clock uses UTC」 オプションを無効にする必要があります。
「System」 – 「Administration」 – 「Date & Time」 を選択します。
date コマンドを使用してシステム時間を出力し、hwclock --show を使用して
CMOS 時間を出力します。時間が異なる場合は、hwclock コマンドを使用して
CMOS 時間がシステム時間に一致するように変更します。hwclock コマンドの詳細は、
hwclock --help を使用して参照できます。

2.6 ドライバモニタ機能の使用に必要な設定

2.6.1 SLES11 および SLES12/SLES 15 のドライバモニタ機能

- SUSE SLES 11:
 1. 次の行をファイル /etc/syslog-ng/syslog-ng.conf に挿入します。

```
destination hwlog { pipe("/dev/HWLog/syslog_fifo"); };  
log { source(src); destination(hwlog); };
```
- SUSE SLES 12/SLES 15:
 1. 次の行をファイル /etc/rsyslog.conf に挿入します。

```
*.info;mail.none;news.none;authpriv.none;cron.none  
|/dev/HWLog/syslog_fifo
```
- SUSE SLES 11 および SUSE SLES 12/SLES 15:
 1. YaST を起動して **AppArmor Configuration - Manage Existing Profiles** の順に選択します。

2. アクティブな syslog デーモンの名前 (`/sbin/syslog-ng` (SLES11) または `/sbin/syslogd` (SLES12/SLES 15)) を選択して「Edit」をクリックします。
3. 「Enter」または「modify Filename」フィールドに `/dev/HWLog/syslog_fifo` と入力します。
4. **Permissions** で **Read and Write** オプションを有効にします。
5. この入力を保存します。
6. 次に `AppArmor` を再起動します。
`/etc/init.d/boot.apparmor restart`
7. 次に `syslog` サービスを再起動します。
`/etc/init.d/syslog restart` (SLES11)
`systemctl restart rsyslog` (SLES12/SLES 15)

2.6.2 RedHat のドライバモニタ機能

Red Hat におけるドライバモニタ機能では、以下のことが適用されます。

インストール時に次の行が `syslog` デーモンコンフィギュレーションファイルに挿入され、`syslog` デーモンが再起動されます。

```
*.info;mail.none;news.none;authpriv.none;cron.none  
|/opt/fujitsu/ServerViewSuite/HWLog/path/syslog_fifo
```

アンインストール時にこのエントリは削除され、`syslog` デーモンが再起動されます。

2.6.3 syslog のデフォルトフォーマットを変更した場合、必要な設定

`syslog` のデフォルトフォーマットを管理者によって手動で変更した場合は、`ServerView Agents Linux` パッケージに含まれるドライバモニタ設定テキストファイルの説明に従ってください。

2.7 ServerView Agents のカーネルモジュールのインストール

一部の PRIMERGY サーバタイプでは、すべての `ServerView Agents` 機能を利用するにはカーネルモジュールが必要です。この項では、このカーネルモジュールを SLES および RHEL にインストールする方法を説明します。

2.7.1 ServerView Agents のカーネルモジュールのインストール (SUSE Linux)



PRIMERGY サーバ向け Partner Linux Driver Process (PLDP) の詳細については、以下のページをご覧ください。

http://ts.fujitsu.com/products/standard_servers/linux_readmes_popup.html

2.7.1.1 srvmagt-modules-<version>.iso ドライバキットイメージの取得

srvmagt-modules-<version>.iso ディスクイメージを取得するには、以下の方法があります。

- ServerView Suite DVD 2: 「SVSLinux」 - 「Novell-KMP」を選択して、目的の SLES バージョンとサービスパックがあるフォルダまで順にクリックします。
- <ftp://ftp.ts.fujitsu.com/images/serverview/>: DVD ISO イメージ `UPD_LINUX_<version>.iso` をダウンロードできます。「Novell-KMP」を選択して、目的の SLES バージョンとサービスパックがあるフォルダまで順にクリックします。

- 「Driver & Downloads」 Web サイト (<http://ts.fujitsu.com/support/downloads.html>) : 文字列「PLDP srvmagt-modules」を「Driver Quicksearch」フィールドに入力してクイック検索を使用すると、使用できるすべての PLDP ドライバパッケージ srvmagt-モジュールの一覧が結果として出力され、該当するパッケージを選択できます。

または、以下の手順を実行することもできます。

1. 「Software」 - 「ServerView」 - 「Operation」 - 「Agents and Providers」の順に選択すると、「Downloads for Agents and Providers」ページが表示されます。
2. 目的の SUSE Linux バージョンページを選択します。
3. 「Server Management Software」 - 「ServerView Agents & CIM Providers」を選択します。ディスクイメージは「PLDP driver package srvmagt-modules <version> for SLES<nn> SP<n>」パッケージにあります (ファイル名: `FTS_PLDPdriverpackagesrvmagtmodules<version>.zip`)。

2.7.1.2 srvmagt-modules-<version>.iso ドライバキットイメージの管理対象サーバへの提供

ダウンロードしたパッケージを管理対象サーバに提供するためには、以下の手順に従います。

1. iso イメージをループマウントして、システムにリポジトリを通知します。

```
# mount -o loop /tmp/srvagt-modules-*.iso /mnt/img
# zypper ar /mnt/img srvmagt
```

2. モジュールをインストールします。

```
# zypper install primergy-srvmagt-kmp-$KERNEL_FLAVOR
```

\$KERNEL_FLAVOR は、インストールされたカーネルに応じて default または xen です。

フィンガープリント

A6E12DAE581F5A2C016C58E45FE63BCE79444536 によるパッケージの署名キーを求められたら、キーの信頼を選択します。

3. リポジトリをもう一度無効にします。

```
# zypper rr srvmagt
# umount /mnt/img
```

2.7.1.3 オンラインリポジトリからのカーネルモジュールの取得

別の方法として、システムが Fujitsu ドライバパッケージリポジトリに http://patches.ts.fujitsu.com/linux/index_pldp.html (システムがインターネットに直接アクセスできない場合は、このミラーサイト) からアクセスするように設定できます。

この場合、ISO ファイルをダウンロードする必要はありません。

次の手順に従います。

1. 必要に応じて、ドライバリポジトリを指定します。



以下のコマンドを発行する前に、必要な OS のバージョンを代入する必要があります。

```
# zypper ar
http://patches.ts.fujitsu.com/linux/pldp/SLE12/sles12-sp3/
primergy-sles12-sp3
```

2. モジュールをインストールします。

```
# zypper install primergy-smbus-kmp-$KERNEL_FLAVOR
```

2.7.2 ServerView Agents のカーネルモジュールのインストール (Red Hat Linux)



PRIMERGY サーバ向け Red Hat Driver Update Process (RHDUP) の詳細については、以下のページをご覧ください。

http://ts.fujitsu.com/products/standard_servers/linux_readmes_popup.html

2.7.2.1 srvmagt-modules-<version>.iso ドライバディスクイメージの取得

srvmagt-modules-<version>.iso ディスクイメージを取得するには、以下の方法があります。

- ServerView Suite DVD 2: 「SVSLinux」 - 「RHDUP」を選択して、目的の RHEL バージョンとバージョンアップデートがあるフォルダまで順にクリックします。
- <ftp://ftp.ts.fujitsu.com/images/serverview/>: DVD ISO イメージ `UPD_LINUX_<version>.iso` をダウンロードできます。「RHDUP」を選択して、目的の RHEL バージョンとバージョンアップデートがあるフォルダまで順にクリックします。

- 「Driver & Downloads」 Web サイト

(<http://ts.fujitsu.com/support/downloads.html>) : 文字列「RHDUP srvmagt-modules」を「Driver Quicksearch」フィールドに入力してクイック検索を使用すると、使用できるすべての RHDUP ドライバパッケージ srvmagt-モジュールの一覧が結果として出力され、該当するパッケージを選択できます。

または、以下の手順を実行することもできます。

1. 「Software」 - 「ServerView」 - 「Operation」 - 「Agents and Providers」の順に選択すると、「Downloads for Agents and Providers」ページが表示されます。
2. 目的の Red Hat Linux バージョンを選択します。
3. 「Server Management Software」 - 「ServerView Agents & CIM Providers」を選択します。ディスクイメージは RHDUP ドライバパッケージ `srvmagt-modules<version> for RHEL<version>` にあります (ファイル名: `FTS_RHDUPdriverpackagesrvmagtmodules<version>.zip`)。

2.7.2.2 srvmagt-modules-<version>.iso ドライバディスクイメージの管理対象サーバへの提供

ダウンロードしたパッケージを管理対象サーバに提供するためには、以下の手順に従います。

1. iso イメージをループマウントして、システムにリポジトリを通知します。

```
# mount -o loop /tmp/srvmagt-modules-*.iso /mnt/img
# cp /mnt/img/dud.repo /etc/yum.repos.d/srvmagt.repo
```

2. マウントポイントへのパスを .repo ファイルに設定します。

```
# sed -i 's,<INSERT_MOUNT_POINT_HERE>,mnt/img,' \
/etc/yum.repos.d/srvmagt.repo
```

3. primergy-dup を GPG キーでインストールします。



この手順は、primergy-dup がシステムにまだインストールされていない場合にのみ必要です。

```
# yum --disablerepo=\* --enablerepo=srvmagt_modules_9.00.02*\ install
--nogpgcheck primergy-dup
```

フィンガープリント

A6E12DAE581F5A2C016C58E45FE63BCE79444536 によるパッケージの署名キーを求められたら、キーの信頼を選択します。

4. .repo ファイルで GPG キーを primergy-dup パッケージからコメントアウトを外します。



この手順は、primergy-dup がシステムにまだインストールされていない場合にのみ必要です。

```
# sed -i '/gpgkey = file.*/s/^# //' \
/etc/yum.repos.d/srvmagt.repo
```

5. モジュールをインストールします。

```
# yum --disablerepo=\* --enablerepo=srvmagt_modules_
9.00.02*\ install kmod-srvmagt
```

```
# umount /mnt/img
```

ドライバ署名キー 0x79444536 の確認を求められたら、同意します。

6. リポジトリをもう一度無効にします。

```
# sed -i '/enabled/s/= yes/= no/' \
/etc/yum.repos.d/srvmagt.repo
```

2.7.2.3 オンラインリポジトリからのカーネルモジュールの取得

別の方法として、システムが Fujitsu ドライバパッケージリポジトリに
http://patches.ts.fujitsu.com/linux/index_pldp.html (システムがインターネット

トに直接アクセスできない場合は、このミラーサイト) からアクセスするように設定できます。

この場合、ISO ファイルをダウンロードする必要はありません。

次の手順に従います。

1. 必要に応じて、リポジトリを指定します。

```
# cd /etc/yum.repos.d
```



以下のコマンドを発行する前に、必要な OS のバージョンを代入する必要があります。

```
# curl -o primergy-rhel6-u4.repo  
http://patches.ts.fujitsu.com/linux/pldp/RHEL6/rhel6-u4.repo
```

2. 必要に応じて、Fujitsu GPG キーを指定します。

```
# yum install --nogpgcheck primergy-dup
```

3. モジュールをインストールします。

```
# yum install kmod--srvmagt
```

ドライバ署名キー 0x79444536 の確認を求められたら、同意します。

3 ServerView Agents のインストール



クライアント認証に PKI (Public Key Infrastructure) を使用する場合

クライアント認証により、管理対象サーバが、信頼されない管理用サーバまたは管理用サーバで実行中の権限のないアプリケーションからアクセスされることを防ぎます。ServerView Agents と共に証明書ファイルをインストールするか、ServerView Agents がすでにインストールされている場合に管理対象サーバに証明書ファイルをインストールするかを、選択できます。

ServerView Agents と共に証明書ファイルをインストールするには、エージェントを実際にインストールする前に、証明書ファイルがあらかじめ管理対象サーバにインストールされている必要があります。

詳細は、『ServerView でのユーザ管理』取扱説明書を参照してください。



ServerView Operations Manager および ServerView RAID Manager に必要な追加パッケージについては、『Installation under Linux』インストールガイドに記載されています。



Citrix XenServer への ServerView Agents のインストールは、XenServer サプリメント CD に収録されています。CD は ServerView Suite DVD 2

(**ServerView - XenServer Supplements** または **SVSSoftware\Software\XenServer-Supplements**) に含まれています。

ISO イメージを Fujitsu Web サーバからダウンロードすることもできます。

(<http://support.ts.fujitsu.com/download/>)

必要なソフトウェアパッケージ、インストールをサポートするスクリプト、設定およびリリース文書が含まれています。

3.1 要件

ServerView Agents をインストールする前に、いくつかの要件を満たしておく必要があります。

- OS プラットフォームに該当する Net-SNMP パッケージをインストールする必要があります。

OS	Net-SNMP パッケージ
SUSE SLES	net-snmp
Red Hat Enterprise Linux	net-snmp と net-snmp-utils
Oracle Linux	net-snmp と net-snmp-utils
Citrix XenServer	net-snmp

テーブル 3: 該当する Net-SNMP パッケージ

- ServerView Agents には、以下のソフトウェアパッケージが必要です。
 - SUSE SLES (パッケージの名称表記は SLES のバージョンによって異なります) :

OS	ソフトウェアパッケージ
SLES 11	libstdc++6, libcurl4 および libopenssl10_9_8
SLES 12/ SLES 15	libstdc++6, libcurl4, libopenssl11_0_0

テーブル 4: 必要なソフトウェアパッケージ (SUSE SLES)

- Red Hat, Oracle Linux, Citrix XenServer:

OS	ソフトウェアパッケージ
RHEL/OL	openssl libstdc++ libcurl

テーブル 5: 必要なソフトウェアパッケージ (Red Hat, Oracle Linux, Citrix XenServer)

OS	ソフトウェアパッケージ
Citrix XenServer	openssl libstdc++

テーブル 5: 必要なソフトウェアパッケージ (Red Hat、Oracle Linux、Citrix XenServer)



これらのパッケージは YaST / YUM を使用してインストールできます (推奨)。

- ServerView CIM Providerの追加要件:
 - CIMOM (CIM Object Manager) サービスを有効にする必要があります。サポートされる CIMOM は SFCB と OpenPegasus です。
- RAID 周辺機器の管理には、ServerView RAID Manager をシステムにインストールする必要もあります。インストールについては、『RAID Management』取扱説明書に記載されています。
- ServerView Suite DVD 2 を挿入し、CD のルートディレクトリで、start.html ファイルを Web ブラウザで開きます。「**ServerView**」 - 「**Agents and Providers**」に移動して、表の中の「**ServerView Agents Linux and VMware**」リンクをクリックします。
「**Supported Systems**」にリリースされた PRIMERGY システムの一覧があります。

3.2 スクリプトベースのインストール

srvmagt スクリプトを使用して ServerView Agents をインストールします。このスクリプトは、これまでの蓄積からわかるすべての依存をテスト/検証し、必要なすべての準備を把握してから、必要なアクションを実行して、ServerView Agents Linux をシステム上に確立しようとします。

このスクリプトは以下のことを実行します。

- Linux ディストリビューション (SUSE、Red Hat など) を識別する。
- カーネルのバージョンを識別する。
- BIOS データを使用して PRIMERGY サーバのモデルを識別する。
- PLDP (Partner Linux Driver Process) および DUP (Driver Update Process) がサポートされているかどうかを識別する。この場合、必要に応じて、スクリプトは ServerView カーネルモジュールパッケージ (KMP) を自動的にインストールしようとします。

- SNMP パッケージ、および特定のモデルまたはディストリビューション用のその他のパッケージの存在を確認します。
- `snmpd.conf` の設定（日本語 OS 環境の場合のみ）

日本語 OS で ServerView Agents をインストールすると、インストールスクリプトによって SNMP サービスを設定する必要があるかどうかチェックされます。必要がある場合、バックアップファイル `/etc/snmp/snmpd.conf_svsave` が作成され、以下のエントリがファイル `/etc/snmp/snmpd.conf` に追加されます。

```
com2sec svSec localhost public
com2sec svSec 127.0.0.1 public
com2sec svSec default public
group svGroup v1 svSec
view svView included .1
access svGroup "" any noauth exact svView svView none
trapsink 127.0.0.1
```

詳細については、[24 ページの SNMP サービスの設定](#)を参照してください。

3.2.1 ServerView Suite DVD 2 を使用したインストール

ServerView Suite DVD 2 には、ServerView Agents とシェルアーカイブ `srvmagtDVD.sh` の rpm パッケージが収録されています。ServerView Suite DVD 2 の次のディレクトリにスクリプトが格納されています。

SVSSoftware\Software\ServerView\Linux\Agents- V8xx\x86-64

エージェントをインストールするためには、次の手順に従います。

1. ServerView Suite DVD 2 を挿入し、必要に応じてマウントします。
2. ターミナルを（ルートで）開きます。
3. 次のディレクトリに変更します。SVSSoftware\Software\ServerView\Linux\Agents- V8xx\x86-64 .
4. 次のコマンドを入力します。

```
./srvmagtDVD.sh [-R] [--ssm install | not-install]
```

-R

他の RPM パッケージとともに ServerView RAID Manager RPM パッケージが提供されている場合は、インストールします。

--ssm install | not-install

ServerView System Monitor Web インターフェースのインストールを指定します。デフォルトでは、パッケージをインストールします。

このオプションは、Red Hat、SUSE、または Oracle Linux システムでのみ評価されます。

これで、スクリプトによりインストールが自動的に実行されます。



ServerView System Monitor または CIM Provider のインストールが失敗しても、ServerView Agents のインストールは中断されません。

3.2.2 ディレクトリからのインストール

ServerView Agents のシェルアーカイブ `srvmagt.sh` と RPM パッケージを含む ZIP ファイルを Fujitsu の Web サーバがダウンロードできます。

(<http://support.ts.fujitsu.com/download/>)を任意のディレクトリに保存します。



注意事項

以下の手順では、`srvmagt-modules-<version>.iso` ドライバキット/ディスクが管理対象サーバにマウント済みであることを前提としています（28 ページの [ServerView Agents のカーネルモジュールのインストール \(SUSE Linux\)](#) 28 ページの [ServerView Agents のカーネルモジュールのインストール \(SUSE Linux\)](#) の項を参照）。

エージェントをインストールするためには、次の手順に従います。

- 適切な ServerView Agents Linux パッケージ (`FTS_ServerViewAgentsLinux_<version>_<nnnnnnn>.zip`) を以下の手順に従ってダウンロードします。
 - 「**Driver & Downloads**」 Web サイト (<http://ts.fujitsu.com/support/downloads.html>) で、「**Software**」 - 「**ServerView**」 - 「**Operation**」 - 「**Agents and Providers**」の順に選択し、「**Downloads for Agents and Providers**」ページを表示します。
 - 目的の Red Hat/SUSE Linux バージョンを選択します。
 - 「**Server Management Software**」 - 「**ServerView Agents & CIM Providers**」 - 「**SeverView Agents for Linux**」の順に選択します。
- インストール RPM パッケージとシェルアーカイブ `srvmagt.sh` を任意のディレクトリに保存します。
- ターミナルを（ルートで）開きます。
- 該当ディレクトリに切り替えます。

```
cd <path>
```
- `srvmagt.sh` を実行する権限を付与します。

```
chmod +x srvmagt.sh
```

6. 次のコマンドを入力します。

```
./srvmagt.sh [option] install
```

オプションについては、[39 ページの srvmagt スクリプト](#)で説明しています。

このスクリプトは、すべての RPM パッケージをインストールします。

3.3 rpm コマンドを使用するインストール

rpm コマンドを使用してインストールするには、以下の手順に従います。

1. ターミナルを（ルートで）開始します。
2. ServerView Suite DVD 2 をマウントします。
3. Linux Agents を含むディレクトリに移動します。

```
cd /mnt/cdrom/SVSSoftware/Software/ServerView/Linux/Agents
```

4. 以下の RPM パッケージをインストールします。

```
rpm -U ServerViewConnectorService-<scs バージョン>-<リリース>.x86_64.rpm
```

```
rpm -U srvmagt-mods_src-<バージョン>-<リリース>.x86_64.rpm
```

```
rpm -U srvmagt-eeed-<バージョン>-<リリース>.x86_64.rpm
```

```
rpm -U srvmagt-agents-<バージョン>-<リリース>.x86_64.rpm
```

```
rpm -U srv-cimprovider-<バージョン>.x86_64.rpm
```

```
rpm -U SSMWebUI-<バージョン>.noarch.rpm
```



パッケージは上記の順序でインストールしてください。

<scs バージョン>

Remote Connector Service のバージョンおよびリリース番号（2.21.00 など）を指定します。

<バージョン>

ServerView Linux Agents のバージョンおよびリリース番号（8.00-10 など）を指定します。

3.4 エラーの考えられる原因

- コンパイル中にエラーが発生した場合、適切なカーネルソースコードがサーバ上にないことが考えられます。
- 続けてモジュールのコンパイルを手動で開始するには、以下のコマンドを使用します。

```
/etc/init.d/eecd_mods_src start (SysVinit システム)  
systemctl start eecd_mods (Systemd システム)
```

3.5 インストール後の ServerView Agents のメンテナンス

3.5.1 srvmagt スクリプト

36 ページの [ServerView Suite DVD 2](#) を使用したインストール、または 37 ページの [ディレクトリからのインストール](#) に記載されているように ServerView Agent for Linux をインストールすると、srvmagt スクリプトを使用して管理するための追加機能が提供されます。

1. ターミナルを（ルートで）開きます。
2. コマンドを入力します。構文を参照してください。

構文

```
[/usr/sbin/]srvmagt [option] [action]
```

option には、以下を指定できます。

-f

発行された警告/拒否に対して、目的のアクションを強制します。



その場合、ユーザは自身のリスクと責任に基づいて決定を下してください。動作と機能は定義されていません。

-h | --help

コマンド構文を表示して終了します。

-n

インストールアクションによるインストール中に、いかなる ServerView Agents のデーモンも起動しません。

-p <path>

ここで、RPM パッケージが含まれているディレクトリを指定できます。
<path> は、ローカル/リモートファイルシステムのディレクトリへのパスです。



このパスオプションには、スペースまたは特殊文字は使用しないでください。

-R

他の RPM パッケージとともに ServerView RAID Manager RPM パッケージが提供されている場合は、インストールします。

--ssm install | not-install

ServerView System Monitor Web インターフェースのインストールを指定します。デフォルトでは、パッケージをインストールします。



このオプションは、Red Hat、SUSE、または Oracle Linux システムでのみ評価されます。

-v <vers>

処理するバージョンを指定します。デフォルトは、スクリプトのバージョンです。

--version

スクリプトのバージョンを表示して終了します。

-V

verbose 情報を表示します。

action(アクション)として、以下を指定できます。

install

すでにインストールされている設定、および **-v** オプションで指定されたバージョンに従って、すべての ServerView Agents Linux の RPM パッケージをインストール（修正、アップデート）します。**-n** オプションも指定されていない場合は、該当のサービス（つまり、デーモン）が後で起動されます。

start

ServerView Agents Linux を起動します。

restart

ServerView Agents Linux を再起動します。

status

ServerView Agents Linux のステータスを表示します。

diag

PrimeCollect(8) を呼び出して、診断材料を収集します。

stop

ServerView Agents Linux を停止します。

remove

すべての ServerView Agents Linux の RPM パッケージを削除します。




OSが Citrix XenServer の場合、ServerView RAID パッケージも同時に削除されます。

3.5.2 エージェントの設定



/etc/srvmagt/config ファイルには、管理対象システムへのアクセスを制限し、その他の運用パラメータを選択できる情報が含まれています。

「#」で開始する行はコメント行で、その他の行は次の形式です。


<キーワード>=<値>

キーワード	値
AgentPermission	他のシステムが SNMP コマンドを使用してローカルサーバの値を設定するための基本アクセス許可。 2：許可しない（デフォルト） 3：許可する
	 日本語 OS 環境：デフォルト値は 3。
	SNMP SetRequest を許可する場合は、この値を 3 に設定し、SNMP サービスを適切に設定します（ 24 ページの SNMP サービスの設定 を参照）。


テーブル 6: /etc/srvmagt/config ファイルのキーワード

キーワード	値
AgentShut	<p>SNMP コマンドを使用して、ローカルサーバをリモートでシャットダウン/リブートするためのアクセス許可です。</p> <p>2：許可しない（デフォルト）</p> <p>3：許可する</p> <hr/> <p> 日本語 OS 環境：デフォルト値は 3。</p> <hr/> <p>SNMP SetRequest を許可する場合は、この値を 3 に設定し、SNMP サービスを適切に設定します（24 ページの SNMP サービスの設定を参照）。</p>
ShutdownDelay	<p>SNMP シャットダウン要求とシャットダウンとの間の遅延（分単位）を示します。</p>
NoAccountCheck	<p>このエントリに 0 以外の値が指定されている場合、設定を ServerView Operations Manager で変更するときにパスワードを求められません。デフォルト値は 0 で、ユーザグループ認証がデフォルトで有効になっています。この場合、ユーザグループは <code>UserGroup</code> に入力する必要があります。ここには、SNMP 設定を変更するユーザが属する必要があります。</p> <p>無効にされたパスワードの照会によって、セキュリティ上のリスクが生じることに注意してください。</p>
UserGroup	<p>NoAccountCheck に 0 が指定されている場合、Operations Manager では SNMP 設定を変更するために管理用サーバのユーザ/パスワードの組み合わせが要求されます。ユーザにアクセス権を許可するには、ユーザが <code>UserGroup</code> に指定されたユーザグループに属している必要があります。デフォルト設定は <code>bin</code> で、<code>root</code> が含まれています</p> <hr/> <p> 日本語 OS 環境：デフォルト設定は <code>svagtuser</code>。</p> <hr/> <p>ここで指定されたユーザグループが存在しない場合、OS 固有のリソースを使用して作成する必要があります。</p>

テーブル 6: `/etc/srvmagt/config` ファイルのキーワード

キーワード	値
ScanTapeDevices	これが 0 以外の値に設定されている場合、テープデバイス /dev/nst* が開き、現在のステータスを取得できます。テープデバイスが開くと、読み書き位置が意図せずに変更されることがあります（ドライバによる）。テープデバイスがサーバ間で共有されている場合、このパラメータは Operations Manager がテープ操作（バックアップなど）に影響しないようにします。デフォルトはゼロで、テープデバイスは開きません。
TraceFileLimit	/var/log/srvmagt に保存されるトレースファイルのサイズを制御します。 0：トレースファイルなし 1：およそ 200 MB（デフォルト）のスペースが必要 2：およそ 400 MB の超大型トレースファイル
InventoryRescan	サーバのインベントリデータが更新される時間（分単位）を指定します。サポートされる値は、0 と 120～34560 です。値 0 の場合、更新は無効にされます。1 ～ 120 の値は、120 に設定されます。34560 を超える値は 0 に設定されます。デフォルト値は 120 です。  日本語 OS 環境：デフォルト値は 0。

テーブル 6: /etc/srvmagt/config ファイルのキーワード

 config ファイルへの変更は、エージェントを再起動しないと反映されません。このためには、サーバを再起動するか、次のコマンドをシステム管理者として実行します。

```
/usr/sbin/srvmagt restart
```

Citrix Xen または Xen

ServerView Operations Manager で Citrix Xen、または Xen に対してパフォーマンスマネージャおよびスレッシュホールドマネージャをサポートするには、ServerView VME エージェント内のシステムに対してアカウント情報を設定する必要があります。それには、次の手順が必要です。

1. /etc/srvmagt/VME/etc/app.config.xml ファイルを編集します。
2. <authentication> というタイトルの項を検索します。
3. 必要に応じてユーザおよびパスワード情報を入力します。

例

例: <User>us123</User><Password>123passwd</Password>
パスワードはプレーンテキストなので、このファイルへのアクセスを制限する
必要があり、特権ユーザを使用しないことに注意してください。

4. ファイルを保存します。
5. ServerView Agents を再起動します。



KVM 仮想ホストでは、ユーザ名とパスワードは不要です。

3.5.3 ServerView Agents の改善された可用性

ServerView Agents の開始スクリプト `srvmagt (8)` は、`srvmagt cron` スクリプト `srvmagtCron` を呼び出して 15 分ごとに動作します。

`srvmagtCron` は、`eeecd` デーモン、ServerView Agents、`SVRemoteConnector`、SNMP デーモン `snmpd` をチェックして、動作していなければ再起動します。また、個々のチェック時間を `/var/log/srvmagt/log.srvmagtCron` ファイルの最初の行に書き込みます。

`srvmagt (8)` で ServerView Agents を停止すると、この定期監視は停止されます。

ルートの `crontab` から `srvmagtCron` を削除することはできません。影響を受けやすい `crontab` の変更を最小限に抑えるためです。実際の実行は、`srvmagt` ルートディレクトリ内の `srvmagtCronOn` ファイルの存在によって異なります。このファイルは ServerView Agents の起動中に作成され、エージェントが停止されると削除されます。

3.5.4 ServerView Agents をアンインストールする

サーバの BIOS に保存された項目は、ServerView Agents をアンインストールしても元の状態に戻りません。設定を元の状態に戻してから、ServerView Agents をアンインストールしてください。

ServerView Agents をアンインストールする前に、以下のことを必ず行ってください。

1. ソフトウェアウォッチドッグ、BOOT ウォッチドッグ、電源 ON/OFF 設定を無効にしてください。
2. パフォーマンスマネージャでしきい値監視およびレポート作成を適用している場合は、サーバへの適用を解除してください。
3. ServerView Agents のアンインストール時に、ServerView Operations Manager を使用して設定される一部の設定値は削除されます。設定を自動的に

引き継ぐオプションはないため、アンインストール前に設定値をコピーしておいてください。そうしないと、アップデートインストールの後に再設定が必要になります。

ServerView Agents をアンインストールするには、以下のコマンドを入力します。

```
/usr/sbin/srvmagt remove
```

Citrix XenServer では、ServerView RAID Manager もこのコマンドを使用してアンインストールされます。

3.5.5 ServerView Agents の開始と停止

ServerView Agents がインストールされた後、エージェントはシステム起動時に自動的に開始します。診断のためには、エージェントを明示的に停止して再起動すると有効です。

エージェントの開始

以下のコマンドでエージェントを開始します。

```
/usr/sbin/srvmagt start
```



Linux エージェントを開始する前に、SNMP マスターエージェント `snmpd` を開始してください。

エージェントの停止

以下のコマンドでエージェントを停止します。

```
/usr/sbin/srvmagt stop
```

3.5.6 ServerView CIM Providerの開始と停止

ServerView CIM Providerの開始と停止は、CIMOM によって実行されます。

CIMOM の起動とシャットダウンについては、対応する CIMOM のマニュアルを参照してください。

3.5.7 補足情報

- S30 または S40 が SCSI (SAF-TE) でサーバに接続され、エージェントによって登録されていない場合は、Linux で設定されるデバイスファイルが不足していることがあります。これらのデバイスファイルは SNMP エージェントとストレージ拡張ユニットの通信に必要です。デフォルトで、Linux は SCSI 接続に

/dev/sg0 から /dev/sg15 まで 16 個までのデバイスファイルを設定します。17 台以上のデバイスを SCSI を接続するには、追加のデバイスファイルを指定する必要があります。SCSI デバイスファイルの数は、/proc/scsi/scsi ファイルに指定されています。追加のデバイスファイル (/dev/sg) は、以下のコマンドを使用して追加できます。

```
mknod /dev/sg<番号> c 21 <番号>
```

<番号> には、最後にあるエントリに続く番号を入力します（たとえば、最後のエントリ番号が 15 の場合、16 から始まる番号）。新しいデバイスファイルを作成した後、サーバを再起動する必要があります。

- 新しいハードウェア（リモートサービスボードなど）を取り付けたり、新しいストレージ拡張ユニットを追加しても、認識されない場合は、eecd（environment enclosure control daemon）の「再スキャン」の実行が必要になります。次のコマンドを使用して eecd を再起動します。

```
/etc/init.d/srvmagt stop
```

```
/etc/init.d/eecd stop
```

```
/etc/init.d/eecd rescan
```

```
/etc/init.d/srvmagt start
```

3.5.8 管理ユーザの設定

ServerView の管理者権限を持つグループに属するユーザのみ、ServerView Operations Manager から監視対象サーバの ASR（Automatic Server Reconfiguration & Restart）設定（ファン/温度/再起動設定など）やサーバのシャットダウンなどの操作を行うことができます。これらの操作には管理者ユーザの名前とパスワードが必要です。

管理者権限のあるグループは UserGroup に設定されているグループです。[41 ページの エージェントの設定](#)を参照してください。

管理者ユーザを設定するには、次の手順に従います。

- 新規ユーザを管理者ユーザとして作成します。

root としてログインして、以下のコマンドを実行します。

1. useradd コマンドの G オプションに管理者権限を持つグループ名を指定します。

```
# useradd -G <管理者権限を持つグループ名> <ユーザ名>
```

```
# passwd <ユーザ名>
```

<ユーザ名> には、作成するユーザの名前を指定します。

2. `passwd` コマンドを使用して新規ユーザのパスワードを設定します。確認のためにパスワードは 2 回入力する必要があります。

パスワードを設定すると、新規作成したユーザ名が有効になります。コマンドの詳細については、`useradd` (8) および `passwd` (1) の man ページを参照してください。

- 既存のユーザを管理者ユーザとして設定します。

設定しようとしている既存のユーザが複数のグループに属していないかどうかをシステム管理者に確認してから、次のコマンドを実行します。

ユーザがメイングループにのみ属している場合：

```
# usermod -G <管理者権限を持つグループ名> <ユーザ名>
```

ユーザが複数のグループに属している場合：

```
# usermod -G <管理者権限を持つグループ名>,<ユーザグループ,...> <ユーザ名>
```

`usermod` コマンドの `g` オプションに管理者権限を持つグループ名を指定します。複数のグループを指定するには、グループをカンマ","で区切ります。ユーザがあらかじめ属しているグループを指定しないと、ユーザはそのグループから削除されます。ユーザが属しているグループをすべて指定してください。

<ユーザ名> に、管理者ユーザとしてユーザ名を指定します。

`usermod` コマンドの詳細については、`usermod` (8) man ページを参照してください。

またグループは、`vigr` コマンドを使用して直接設定することも、GUI ツールを使用して設定することもできます。詳細については、`vigr` (8) man ページまたは Red Hat Linux のマニュアルを参照してください。

3.5.9 インストール後のコンピュータ情報の変更

管理用 ServerView Agents がインストールされているサーバのコンピュータ名または IP アドレスを変更する場合、ServerView Agents で設定などを変更する必要はありません。

ただし、個々の環境の `snmpd.conf` ファイルを以前編集したことがある場合は、必要に応じて `snmpd.conf` ファイルを編集します。

`snmpd.conf` ファイルを編集したら、`snmpd` サービスと ServerView Linux エージェントを次の手順で再起動します。

1. ルートとしてログインします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
# /usr/sbin/srvmagt stop
```

```
# /etc/init.d/snmpd stop

# /etc/init.d/snmpd start

# /usr/sbin/srvmagt start
```

3.5.10 アップデートインストール/カーネルのアップデート

このセクションでは、ServerView Linux Agents のアップデートインストールプロセスについて説明します。

1. ソフトウェアウォッチドッグと BOOT ウォッチドッグを「Enable」に設定している場合は、「Disable」に設定します。
2. カーネルアップデートを使用してカーネルをアップデートして、OS をリブートします。
3. /etc/snmp/snmpd.conf_svsave ファイルが作成されます（日本語環境のみ）。

/etc/snmp/snmpd.conf_svsave ファイルの存在を確認します。

このファイルが存在しない場合、次のコマンドで作成します。

```
# cp /etc/snmp/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf_svsave
```

snmpd.conf_svsave ファイルが存在する場合、インストールスクリプトで編集されません。

4. syslog のデフォルトフォーマットを管理者によって手動で変更した場合は、ServerView Agents Linux パッケージに含まれるドライバモニタ設定テキストファイルの説明に従ってください。
5. ServerView Linux Agents をアップデートします。
6. 手順 1 でソフトウェアウォッチドッグと BOOT ウォッチドッグを無効にした場合は、有効に戻します。

3.5.11 パフォーマンスマネージャによるレポートの出力

パフォーマンスマネージャのレポート設定で、レポートの出力を有効にします。

レポートデータの保存

レポートデータは次のフォルダに保存されます：/var/srvmagt/reports/

レポートデータのファイル

以下のファイルが各レポートに作成されます。xxx は、パフォーマンスマネージャに設定されているレポート名を示します。

- xxx.dat
- xxx.ind
- xxx.names

パフォーマンスマネージャでレポート設定を削除すると、これらのファイルも削除されます。



パフォーマンスマネージャのレポートの「定義で記録するレポートの最大エントリ数」を設定しない場合や、短い間隔でサーバをポーリングして長時間レポートを出力した場合、ファイルサイズが大きくなりすぎるためディスク容量が制約されてしまうことがあります。これを回避するには、エントリ数とレポートを出力する間隔を正しく設定します。

3.5.12 /tmp ディレクトリ配下の一時ファイル

ServerView Agents を起動すると、s.xxxxxxx (xxxxxxx は任意のアルファベット文字列) という名前の、サイズがゼロバイトの一時ファイルが /tmp ディレクトリに作成されます。

このファイルにより、ServerView Agents のサブエージェントと snmpd が通信できます。

このファイルの場所を変更できません。

また、このファイルを手動で削除すると、ServerView Agents が正常に動作しなくなる場合があります。

3.5.13 syslog のソース名

ServerView Agents がハードウェアエラーを検出すると、エラーが syslog に記録されます。ServerView Agents が報告するイベントのソース名は、serverview です。

3.6 APC UPS の設定

次の説明は、PRIMERGY にのみ有効です。

UPS を監視するためには、対応するエージェント (APC) をサーバにインストールする必要があります。Web カード付きの APC UPS の場合、該当する SNMP エージェントが Web カードにあらかじめインストールされています。

既存の UPS 構成を Operations Manager アプリケーションに表示するには、先にインストールプログラムから入力しておく必要があります。UPS の自動検出はまだ

実装されていません。そのため、UPS の各エントリには監視対象のハードウェアが含まれます。

`oemups` ユーティリティを使用して UPS を設定できます。UPS エントリを追加するには、以下のコマンドを入力します。

```
oemups -a
```

Vendor Name、UPS Type、IP Address、Cabinet ID パラメータが照会されます。これらのフィールドには最初はデフォルト値 (American Power Conversion、APC UPS、0.0.0.0, 0) が表示されます。IP Address には、サーバの IP アドレスまたは Web カード搭載の UPS の IP アドレスを入力する必要があります。

次のコマンドを使用して、既存の UPS エントリの一覧を表示できます。

```
oemups -l
```

次のコマンドを使用して、UPS エントリを削除できます。

```
oemups -d <UPS エントリの番号>
```



変更内容は、サーバを再起動しないと反映されないことに注意してください。